

夢 塾 だ よ り

～ 今日を素敵に生きる ～

(第16号) 平成30年10月25日



哲学者ニーチェは『一日をよいスタートではじめたいと思うなら、目覚めたときに、この一日の間に少なくとも1人の人に、少なくとも一つの喜びを与えてあげられないだろうかと思案すること』といい、『この習慣を多くの人が身につければ、自分だけが得をしたいという祈りよりも、ずっと早く世の中を変えていこう』と述べています。・・・朝夕、だんだん涼

しくなり、秋めいてきました。寝苦しかった暑い夏もすぎ、朝の目覚めもすっきりしてきた今朝、ニーチェの言葉を思い出しました。実行しようと思います。

さて、10月24日の沖縄タイムスに、県高校定通制生徒生活体験発表大会の優秀賞、上原千華さんの発表文が掲載されています。その中で次のような一節がありました。中学の頃不登校になった彼女に寄り添った先生のことです。

『・・・友人がどんな言葉を掛けてくれても、その言葉は何の光にも希望にもならず、友人の心配さえ邪険に感じ、私の心には何も響かなくなった。そんな時、私の心を救ってくれた先生方がいた。当時の担任の先生とカウンセリングの先生である。担任の先生は毎日のように学校に来られるか電話をかけてくれ、そして激励の言葉を添えたプリントを届けてくれた。人と関わることが少なくなっていた私にとって先生の優しい言葉はとてうれしいものだった。カウンセリングの先生は自己分析や人間関係の話、ちょっとした心理学のゲームで、かたくなな私の心を開かせ、もがき苦しんでいた心はだんだんとほぐれ、私は人と会話を交わせるようになっていた。・・・私に似た環境にある人がいたら、その人の力になりたい。先生が私のもつれた心をほどいてくれたように、私も人の気持ちを変えていく力を身につけたいとすこしずつ自分の心が変わっていくのを感じた。・・・』そして最後は『夢を持つことで人は変わる。そして居場所はある』と締めくくっています。人との出会いは偶然ではなく、必然かもしれませんね。上原さんの心に灯を点した両先生の普段からの生徒に対する接し方が目に浮かびます。素晴らしい先生ですね。学校現場にはこうした先生方がたくさんいらっしゃいます。どうかそのような先生の存在に気づいてください。そして先生の力をもらってください。